

緊急地震速報 利用の心得



緊急地震速報を見聞きしたら...
(地震の揺れを感じなくても)

周囲の状況に応じて

あわてず、 まず身の安全を!!



地震の揺れを感じたら...
(緊急地震速報がなくても)

家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない




鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる



エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる



屋外(街)では

- ブロック塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意



自動車運転中は

- 急ブレーキはかけずゆるやかに速度をおとす
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす

緊急地震速報



上記のほか、訪れた施設等において緊急地震速報を見聞きした時は、身を守り、係員の指示に従ってください。

参考：気象庁

緊急地震速報の「警報」と「予報」

	警報	予報
発表基準	震度5弱以上を予想 または 長周期地震動階級3以上を予想 (震度4以上を予想した地域 または 長周期地震動階級3以上を予想した地域に発表)	マグニチュード3.5以上を推定 震度3以上を予想 または 長周期地震動階級1以上を予想
主な対象	広く一般向け： 人が強い揺れから身を守るために活用	高度利用者向け： 主に列車や機器の制御などに活用

※長周期地震動階級の追加は2023年2月1日

猶予時間が限られることから、緊急地震速報を見聞きしたらまずは身を守る行動をとり、揺れが収まるまで行動を続けましょう。
長周期地震動階級の基準だけで発表することはまれですが、人命に係る重大な災害が起こるおそれがあるため、発表の基準に追加しています。
ガタガタという強い揺れ(大きな震度)でも、ゆらゆらというゆっくりとした大きな揺れ(長周期地震動)でもとるべき行動に違いはありません。

長周期地震動ってなに？

大きな地震で生じる周期の長いゆっくりとした大きな揺れを長周期地震動といいます。
震源から遠く離れたところ(数百km以上)でも、高層ビルを長時間にわたって大きく揺らすことがあります。



2011年東北地方太平洋沖地震のときの東京都内のビルの室内の様子(工学院大学提供)

階級	揺れの状況
4	● 立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。 ● キャスター付き家具等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
3	● 立っていることが困難になる。 ● キャスター付き家具等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
2	● 室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 ● キャスター付き家具等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
1	● 室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。 ● ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。

どんなことが起こるの？

- 高いビルでは、長周期地震動による大きな揺れにより、家具類が倒れたり・落ちたり・移動したりします。
- 天井の落下、スプリンクラーの故障、エレベータの障害などが過去の地震で実際におきています。
- 2011年の東北地方太平洋沖地震のときには、地震の発生場所から遠く離れた東京でも高いビルが大きく揺れ、被害が発生しました。